



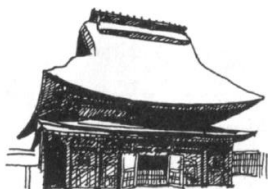
清新二中だより

教育目標

- 1 豊かな心で、互いに敬愛できる人（敬愛）
- 2 進んで学び、深く考える人（知性）
- 3 健康で明るく、自ら鍛える人（健康）
- 4 責任を重んじ、勤労を尊ぶ人（責任）
- 5 礼儀を重んじ、他とよい関係を築く人（礼節）

鎌倉

校長 白石 亨



石段を登りきると、重厚な造りの山門が見えてくる。

この山門は明治の文豪、夏目漱石の小説『門』のモデルにもなっている。そう、北鎌倉にある円覚寺の山門だ。山門に近づいて仰ぎ見ると、その迫力に圧倒される。

そして門柱に触れてみると、でこぼこした触感が手に伝わってくる。長い年月の間に風雨にさらされ、柱は痩せ、木目だけが浮き出ている。極彩色に彩られた派手な門とは異なり、素材のよさを生かした素肌のままの古木の山門。渋く枯れていい色に古びていた。いかにも質実剛健な武士が好む鎌倉らしい風情が漂っていた。

11月下旬、2年生校外学習は鎌倉を訪れた。

生徒たちよりも一足早くJR北鎌倉駅に到着したことを幸いに、自分はこの円覚寺を拝観し、この日一日の安全を願った。しばらくすると生徒たちも円覚寺に到着する。どの生徒も元気いっぴいの顔だ。教室での授業を離れ、自分たちだけで行動できる校外学習。その解放感が生き生きとした笑顔に溢れていた。

今回の鎌倉校外学習の行動プランは、当初、真っさらな白紙だった。

先生方から行動プランは示されなかった。事前学習において、班の仲間と「ここがいい」「あそこがいい」と言い合いながら、自分たちで考えてきた。ねってます、まとめてますと、あんこ屋さんではないが時間と手間をかけて練ってきたグループ行動プラン。自分たちの唯一の鎌倉オリジナルプラン。だからこそ、やりがいがある。

そして先生方からの管理・監督を離れての丸一日。

生徒諸君にとっては、自由な時間、自由な行動に解放感が広がっていく。だがその半面、生徒一人ひとりには重い責任感と自主的な判断力が強く求められてくる。知らない土地を自分たちだけで行動することはとても難しい。まして丸一日を友達と一緒に過ごすことは、美しいことばかりではない。長い時間一緒にいれば、ついつい愚痴が出たり、わがままな部分が出たりする。普段の教室では見えない顔も見えてくる。お互いがお互いの気持ちをつにつの難しさ。それに気付くことが大切だと思う。そして、それらを理解しつつ、実際の体験をとおしてお互いが理解を深め、協力関係を一步一步進めていくことが校外学習なのだと思う。

11時を過ぎると、小町通りにある食事処「峰本」に生徒が集まってきた。天ぷら重と温かなお蕎麦をいただいた。昼食を終えると、多くの生徒は江ノ電に乗って高徳院を目指した。

そう、やはり鎌倉と言えば、何と言っても大仏様だ。

生徒よりも一足早く高徳院に到着し、鎮座している大仏様を見上げると、噂にたがわぬ男前の仏様であった。目元は切れ長で実に清々しく、すっと鼻筋が通った端正な横顔を見せつける。女流歌人の与謝野晶子に「御仏なれど・美男におわす・」と詠ませたのが鎌倉大仏なのだ。奈良東大寺の大仏様は大仏殿の中に鎮座しているが、ここ鎌倉の大仏様は由比ガ浜からの冷たい潮風を身にあびて、野ざらしの姿が一層男っぷりを高めていた。

高徳院に到着すると、多くの生徒が「うわっ大きい」との第一声を上げる。そして班員揃ってお腹のあたりで手のひらを組み、大仏様のポーズを真似して写真を撮ったりもする。中学生の元気で明るくユーモア溢れる姿に接すると嬉しくなる。伸び伸びとした生徒の姿を目にして、2年の先生方も、校外学習の準備の大きな苦勞が報われたことであろう。

「信頼し、任せ、支える」。このことが教育の基本だと思っている。今回、2年生はみごとにその期待に応えてくれた。自分たちで考え行動することが一番なのだ。

